

子供は如何なる書物を好むか

(Hubert u. Coryell ノーエル氏實驗の紹介)

東京市日比谷圖書館長 今 澤 慈 海

子供に讀みものを與ふる時に、甲が適當だとか乙が不適當だとか云ふ事は勿論、其子の年齢なり、個性なりに應じて一應は、成人が選擇して渡すべきであるが、扱一度選擇して與へた以上は、どこは讀んでもいい、がどこはあまり良くないとかまで、立入て干渉しない方がよいと思ふ。これはよい、と一度選んで與へたなら其中の何處を讀まうと子供の自由にまかすべきであると思ふ、それにつき、熱心なる兒童研究者、米國のノーエル氏 (Hubert u. Coryell) の説を左に紹介する。之により何等か諸君の參考に資する所あらば幸である。

過去十年間、殊に最近の五年間の經驗によつて、私は、兒童に彼等が讀んだ幾つかの書物に就て感想を語らしめ、その書物の一々の價値を批評させると、彼等の意見批評は全體として餘程正確なものであることを知つた。小供等は立派に單に暇潰しの讀み物と眞に價値ある讀み物との識別が出来る。大人のやうな偏見がないので或場合には大人以上の批評が出来る。

又、大人が小供に『この書物は有益だからせひお讀みなさい』と云つて薦めても、小供は仲々聞き容れないものである。と云ふのは今まで大人が小供に與へる書物と云へば、大抵『古い乾燥無味な讀み物』——“Dry old stuff”——に定つてゐたから、それで小供は大人の云ふことにも早や耳をかきなくなつたのである。それに反して子供が同年輩の子供から『此の書物は面白いよ、讀んでこらん』と云はれると非常に讀書慾を刺戟するものである。

そこで私は、吾々が不用意に兒童の讀み物を選択することを止めて、小供等自身に書物の批評をさせ、彼等が好きな書物を選択させるとすればどうであらうかと考へた。實際彼等の批評なり選擇なりはそれほど間違つてゐないのである。又一つの書物を子供等に讀ませる時に、『ビル、これを讀んでご覧。トムやチックやジムが非常に面白いと云つてゐるから』

と云つて薦めると必ず効果がある。

茲で私が子供等の意見は全體として大人の意見とどこまでも一致すると云へば、或は反對者があるかも知れない。がこれは議論ではなく、私の多年の周到な経験と觀察によつて確め得た明白な事實である。それで今私はその経験と觀察の経路をざつと述べやうと思ふのである。

私は少年の時、自分の先生を文學などのさつぱり分らない人だと思つたことを記憶する。先生は「イバアンジェリン」「イーノックアーデン」「ロージャー・デ・カヴァリー・ペーパーズ」の如き自分等には謂はゞ古くて徹の生えたやうな、且つ砂を嚙むやうな面白味のないものばかり讀ませたことを憶えてゐる。その時私は、自分が若し先生になれば、「Jungle Books」、「Swiss Family Robinson」、「The Last of the Mohicans」の如きもつと面白いものを生徒に讀ませてやらうと思つた。其の後私が教師になつてから、この少年時のことを追想して、これらの書物を生徒に薦めた。が驚いたには、生徒はこれ等の書物を全く興味を感じない様子であつた。のみならず或生徒の如きは「The Last of the Mohicans」の如きは嫌

ひですと云つた。

其後、或日一人の生徒が、教室に、「With the Indians in the Rockies」と云ふ私の未だ聞いたことのない書物を持つて来て、大變面白いから級の者に讀ませてくれと云つた。その少年はその書物を差し上げて皆の者に示した。私はそれが Houghton Mifflin 會社の出版であるのを見て、それほど無價値な書物ではないと思つてやゝ安心した。級の者皆が讀んで大變面白いと云つた。黒人の大人と白人の少年とがロッキーマン山中で餓と寒氣とに戦ひながら一と冬過すと云ふ物語である。成程描寫も生々としてゐる、少年の興味をそゝる處がある。兎に角價、値ある作品である。

これは數年前のことであるが、その時、私は面白い書物が見付かつたものだと思つた。と同時に私はもつと大きい事實を發見した。それは子供等は同年輩の仲間が薦めた書物によく好んで讀み、教師の薦める書物にはほとんど頑固と思はれる程反感を有つてゐると云ふことである。それで私はもう教師として子供等に讀むべき書物を指摘して薦めることを止めて、彼等に自發的に好きな書物を選択させよう

思つた。そして明らかに小供の讀むべからずと思ふ書物は避けさせる方針をとつて、其他は努めて放任的に、小供等は實際どんな書物を好み、又どれだけ多く讀書するものか傍觀してゐた。

私の文學に對する考は此の時から變つて來た。教科書を選ぶにも、先づ生徒の意見を聞き、彼等どんな書物を好むか、又その好む理由などを語らしめた。又最も好きな書物を投票させたりした。

上級生(十二歳から十五歳まで)には、書物は主として家庭で讀ましめ、教室ではたゞ讀んだ書物の批評をやらせ、感想を作らせ、又面白い一章を朗讀させたりすることにした。

そこで書物をざつと三種類に分けた。

第一種 必ず小供の讀むべき書物、

第二種 一讀の價値ある書物、

第三種 全然暇つぶしの書物、

このうち第一種、第二種には何如なる書物を選ぶべきか、その性質條件は如何などに關して色々討論したが、結局投票によつてそれを決めることにした。

次に私は人が少年期に於てどれだけの書物を讀むかを知らうと思つた。調査の結果大凡そ二百冊から

四百冊までとすることが出來た。今現に市場に出てる少年書類は數千部ある。そのうちから二百乃至四百冊を選ばねばならない。それで常識によつて、先づ第一種の書物、即最も良い書物を選ぶことにし、次に第二種の書物、即一讀の價値ある書物を選ぶことにし、最後に無聊に苦しむ時、娛樂を求める時の讀み物として第三種の書物を選ぶことにした。謂ふまでもなくこれは教室に於て生徒と共にやつたことである。その間努めて私は自分の意見を述べること避けて、小供の意見に従ふことにした。

そのうち一人の生徒が第一種に屬する書物の目録を作らうではないかと云ひ出した。そこで銘々が自分に選んだ書物をアルファベット順にカードに記入することにした。かくして第一種の目録を銘々が作つてゐる間に、も一人の少年が、第二種の目録も作らうではないかと云ひ出した。最後に冒險談の非常に好きな少年が第三種の目録も作らうではないかと云ひ出した。それで結局、皆が銘々自分に今までに讀んだすべての書物を此の三種に分類して、書名、著者名、發行所の名等を記入することにした。そして皆の目録を一つに纏めて三種の讀み物の目録を作

らうとした。

又私は小供に選んだ書物に就ての短い内容説明、又何故それを第一種或は第二種或は第三種に選んだかの簡短な理由も記入させた。

私は、子供に彼の判断によつて書物を識別させ分類させ、分類の理由を述べさせることは、書物に對する小供の鑑賞力を發達させる上に、教師の千萬言の説明以上に有效であることを知つた。吾々は無價値な讀み物を斥けたのではない。が分類に於て、無價値と云ふ符牒を貼ることは、小供の趣味性を一層高める結果となつたのである。小供等が彼等仲間で作つたよい讀み物の目錄を持つてゐる時、彼等自らくだらない讀み物は顧みなくなるのである。

屢々自分の判断に迷ふ子供が私に意見を聞くことがあつた。その機會に眞の文學の鑑賞法を説いて聽かさうかと云ふ念が私の胸に動いた。がなるべくそれを制へて、若し不止得、自分の意見を述べるとしても、それは極軽く一寸暗示を與へる程度に留めた。例へば、『"Lorna Doone"』と云ふ書物は面白いですが、『と一人の生徒に問はれたとき、

『さう。私は面白いと思ふが小供たちにはどうか

ね？お前たちには少し古いかも知れないよ』と云ふ調子であつた。これを聞いてゐた一人の非常に殺伐な活劇的讀み物を好む子供が手を舉げて

『否え、古くはないです。私はそれが好きです』と云つた。

『敘述が少し、どいではないか』と私は云つた。

『さうです。しかし面白い處があります』とその少年は答へた。これを聽いてゐた他の三人の少年も頷いて同意を示した。その時一人の生徒が手を舉げて、『餘り冗漫です』と云つた。と他の少年がそれを反駁して

『君はどこまでその本を讀んだかね？』と訊いた。

その生徒は面を赧めて

『實は四五頁しか讀んでゐない』と云つた。と一人も

『四五頁では、その本がどんなものか分らないではないか』と云つた。級の者もこの最後の言葉に讀同するやうであつた。

實際その書物は少し冗漫である。初の四五頁を讀むと、誰にも倦怠の感じを起させる。がこれを終りまで讀んだ少年が面白いと云つたから、級の者は誰

も同意したのである。これを聞いて、生徒のうちで既にその書物を四五頁読んでだるいと云つて棄てたものでも、再び読んでみようと思ふ感起すだらうと思ふ。

他の少年が私に Zane Grey の書物は面白いですかと聞いた。その少年の父はそれを面白いと云ひ、姉の先生はそれを面白くないと云つたとの事である。實際は Zane Grey の書物を私は非常に面白と思つた。が小供にそれを薦めてよいかどうか一寸思案した。その時私のすぐ前にゐた小供が

『非常に面白い書物です。が第一種に入れることは出来ないでせう』と云つた。猶彼は考へる體で、『第三種に入るべき書物です』と云つた。

又天性デットしてゐられない非常な悪戯子の、それどころか眞面白な處のある少年が、

『「アンクル・トムの部屋」は如何ですか?』と私に問ふた。事實を云へば、あの有名な小説は、私も小供の時に讀んだが、それ程面白くとも思はなかつた。でどう答へてよいか一寸躊躇した。それでその少年に問ひ返した。

『お前はどう思ふか?』

『大變面白く思ひます。私が讀んだうちで最も面白い本だと思ひます』と彼は云つた。其の後、その少年は皆の前で『アンクル・トムの部屋を讀んでから私はもう黒人をニグロなどと云へなくなつた』と眞面目に云つてゐた。

“Swiss Family Robinson” に就て、私は皆の意見を訊いた。多くのものは、その書物は餘り小供らしくて駄目だと云つた。成程、一家族が孤島に住んでゐて、彼等が欲しいと思ふ物が、すべて與へられると云ふのであるから少し子供らしいのである。がそれには反對もあつた。で結局級の四分の一の者はそれを第一種の書物の類に入れた。

斯様な例を一々擧げると果しないから、これだけに留めるが、この經驗によつて私は小供に自由に書物の批評をさせれば、全體として立派な批評が得られど云ふことを充分確め得た。彼等の意見は全體として充分信するに足るものである。彼等互に意見を述べ、啓發し合ふことなどは、到底大人の及び難い處である。

かうして小供の銘々が作つた目錄を纏めて第一種の讀み物(即小供が必ず讀まねばならない書物)の目

録が出来上つた。それには二人以上の子供が選んだ書物をすべて採つた。数日でこれが出来上ると、この方法によつて第二種の目録に取りかゝつた。それには唯一人の小供が選んだ書物が餘り多いので一を先づ中止することにした。そして第一種の目録に選んだ書物のうち、まだ讀んでないものを銘々で讀むことにした。そこでその目録を刷つて皆に配つた。かうして三年間、毎年新しい生徒を相手に同じ経験を繰り返した。そして七十人の生徒の意見を得ることが出来た。その間、私はたゞ明らかに斥くべきと思ふ書物を除くことだけに努めた。——しかし除いた書物はたつた六冊であつた。

最後に出来上つた目録には第一種の讀み物約五十冊と、その内容の簡單な説明、それを選んだ子供の數(七十人のうちから)を記してある。子供等はこれを好んで用ゆる。子供等は自分の仲間で作つたもので、教師の選んだ例の『古い乾燥無味な讀み物』でないことが分つてゐるから安心して用ゆるのである。

次にその書名を舉げる。これ等は少くとも十人以上の子供が選んだものである。一般教師は自分の生徒にこれ等の書物を薦めて決して不都合はないと思

ふ。

- Adventures of Tom Sawyer.
- Arabian Nights.
- Biography of a Grizzly.
- The Black arrow. (七十名のうち四十四名選ぶ)
- Black Beauty.
- Bob, Son of Battle. (四十二名選ぶ)
- The Boy's Life of Theodore Roosevelt.
- The Call of the Wild. (四十八名選ぶ)
- Captains Courageous. (三十九名選ぶ)
- A Christmas Carol.
- The Deers Layer.
- From the Earth to the Moon.
- Gulliver's Travels.
- Hans Brinker.
- Huckleberry Finn.
- In the Great Apache Forest.
- Ivanhoe.
- Jim Davis.
- The Jungle Books. (四十四名選ぶ)
- Kidnapped.
- Kim.
- King Arthur and His Knights.
- Lad, a Dog.
- The Last of the Mohicans.

Little women.
 Lorna Doone.
 The man without a Country.
 Men of Mon.
 The Merchant of the Venice.
 The Merry Adventures of Robin Hood.
 Monarch, the Big Bear.
 Mysterious Island.
 Oliver Twist.
 On the Warpath.
 Otto of the Silver Hand. (三十二名選々)
 The Prince and the Pauper.
 Red Fox.
 Robinson Crusoe.
 Rolf in the Woods.
 The Story of a Bad Boy.
 Swiss Family Robinson.
 Tanglewood Tales.
 The Three Musketeers.
 Tom Brown's School Days.
 Tour of the World in Eighty Days.
 The Trail of the Sanahill Stag.
 Treasure Island. (五十二名選々)
 Twenty Thousand Leagues Under the Sea.
 Two Years before the Mast.

Uncle Tom's Cabin.

Westward Ho!

White Fang.

Wild animals I have Known.

With the Indians in the Rockies.

此の如きは「The Jungle Books,」「Swiss Family Robinson,」「The Last of the Mohicans」の三つは、私が若し小供等は書名を指摘して薦めたならば、小供等は必ず見棄てるであつたらうと思ふ書物である。私がそれに就て何も云はなかつたから、幸ひ目錄に載つてゐる。

勿論此の外にも文學的價值のある立派な讀み物は澤山あるのであらう。がこゝに擧げた書物は少くとも少年讀み物として價値もあり面白みもあり極めて適切なるものであることは確である。これが小供の立場から見ても大人の立場から見ても「健全な讀み物」であることは自ら信じて疑はないのである。

——「The Outlook」一九二三年八月十六日號

——「The Book Table」々々——